

終戦記念日に感じる事いろいろ

毎年8月になると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などが「広島」「長崎」「原爆」「終戦記念日」として騒ぎ立てる。「広島」「長崎」「原爆」については、それぞれの史実を基にして、何らかの感慨を持って一日を過ごすことが多いのだが、8月15日の終戦記念日については、なんとなく自分としてすっきりしない気分になることが多い。多くの人は終戦記念日をどうとらえているのだろう、と気になって少し調べて見た。

<1> 我が国にとって終戦記念日はいつなのか。

「国家として戦争の終結を決定して公表した日」として1945年8月15日を指すのが一般的な考え方であるが、学問的には他論もあるらしい。

ポツダム宣言に基づく降伏文書に調印した1945年9月2日が、公式に終戦となった日であるとする見方があり、サンフランシスコ平和条約が発効した1952年4月28日を終戦の記念日とみるべきだとする考えもある。

国際政治の立場でみれば後述二案の正当性も考えられるが、国内的に、国民的に見ればやはり「終戦の詔勅」をもって終りとするのがわかりやすいと思う。

「1945年8月15日、正午にラジオで大事な知らせがあるから、皆聴きなさい」

「今日お昼にラジオで天皇陛下から大事な話があるんだってさ」

「お昼に天皇陛下からお話があるから、皆さんラジオを聴いて下さい」

などなどのお知らせが周り、多くの人々がそれぞれの場所でラジオの音声に耳を傾けたそうだ。

「終戦の詔勅」は、うやうやしき皇室の言葉で語られ、その場で理解ができなかった人はかなりいたらしい。

多くの国民に理解を得るために「平易で一般的な日本語」で語らなかったのは大変不思議に感じる。

泣きながら聴いている人が沢山いたので、皆に合わせて涙を流したという話も聞いたことがある。

ともかく、長かった戦争は終わった。多くの国民は正直なところ安堵の気持ちが一番強かったと想像する。

<2> では始まりはいつなのか

「終りがいつか」という議論も良いのだが、「物事には始まりがあって、終りがある」のである。

視点を変えて、我が国にとっての開戦記念日はいつなのか、と問いかけてみると、「わからない」と答える人と

「12月8日」と答える人が多いようだ。

1941年（昭和16年12月8日）に始まり1945年8月15日（昭和20年8月15日）に終わった戦争は、日本軍がハワイのパールハーバーを攻撃することで始まった太平洋戦争（日米戦争）である。太平洋戦争は、第二次世界大戦の流れの終端に位置するもので、第二次世界大戦における我が国の動きを遡れば、「我が国の戦争の歴史の起点」が真珠湾攻撃ではないことは明白である。

「アメリカを相手に戦いを挑んだ結果、最新鋭兵器により無差別攻撃を受けて大きな被害を被った」という図式が強く生き残ってしまっていると、大きな読み違いをしてしまうのではないかと心配になる。

昭和16年の日米開戦をさらに遡れば、その四年前には支那事変が発生。

1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋で日中間の武力衝突が発生した。この戦いは前述の1945年8月15日の終戦まで続いていた。

さらに遡ると、満州事変（1931年9月18日）。奉天郊外の柳条湖で関東軍が南満州鉄道を爆破したことに端を発した日中間の戦い。この戦いで日本は満州国を手にする。満洲帝国という傀儡を祭り上げて中ソ国境を北上していくのだが、やがてソビエト軍の南下に阻まれ、中国の共産党と国民党の覇権争いもからみ1945年まで泥沼にはまり込む。

一方で、東南アジアやアジア・オセアニアの島国は化石燃料の宝庫であり、欧州列強の植民地化されていた。満洲の石炭資源と同じように、ここを手に入れないと狭い国土の資源はいずれ底をつくとして、環太平洋エリア

への進出が図られた。

さらにもう一段階歴史を遡ると、朝鮮半島を手に入れた日露戦争につながっていく。つまり、大日本帝国が朝鮮半島に渡り、北進して中国・ソビエトとの戦いに至ったことに誤りの発端があったと見ることもできる。

1894年7月に中国(清国)との間で戦われた日清戦争は、朝鮮半島の権益をめぐる争いで、結果として遼東半島・澎湖諸島・台湾を手に入れた。手に入れた台湾の平定が済んだのは1895年11月だった。

1896年に大本営は解散したのだが、1904年に朝鮮半島の権益をめぐるロシアとの戦いが始まった。

<3> まとめ

日清戦争は、引金としての一連の流れが始まった1894年7月25日、または公式に宣戦布告された1894年8月1日が開戦日ということになる。そしてその流れは1945年8月の終戦に至るものだった。

つまり、「我が国の開戦記念日は1894年7月25日(または8月1日)」で「終戦記念日は1945年8月15日」と読み取ることが正しいような気がするのだが……。

核兵器による被害国であることは事実であり覆すことはできないが、戦争における加害国という立位置も重要なのではないだろうか。

隣の国から「国家としての歴史認識」についてグサリとやられることが度々起きているが、一人一人の国民の歴史認識が堅固でないことは確かなのかもしれない。

以上